

訪問看護ステーション「こころの和」

那須烏山市金井2丁目12番9号



施設のアピール

訪問看護ステーション「こころの和」は、(株)リージョンリンクが運営する24時間対応のステーションです。那須烏山市を拠点に、那珂川町や茂木町、茨城県常陸大宮市で活動しています。利用者さんは、高齢の方を中心に精神疾患の方や神経難病の方などで、地域の方からの支援依頼は基本的に断らないようにしています。

スタッフは看護師11名、事務2名で、今は感染症対策で事務所内を区切るなど3カ所に分かれスタッフ同士との接触を最小限にしていますが、スタッフの人間関係はとも良く、様々な医療機関での勤務経験を活かしながら、同じ看護観を持ち、相談しながら支援しています。



落ち着いた佇まいの事務所は烏山郵便局の向かいにあります。

連携している主な医療機関

那須南病院、阿久津クリニック、水沼医院、熊田診療所、七合診療所など、那須烏山市近郊を中心に医療機関と連携を図っています。また訪問するときスタッフは携帯電話とタブレットを持ち「どこでも連絡帳」を活用していますので、何かあれば他の支援者と情報共有することもできます。実際にヘルパーさんやケアマネジャーさんとも、まめにやり取りしています。

施設の役割や特徴について

「許す限り聴く」支援

訪問すると、利用者さんの表情や生活の様子を観察したり、服薬の確認も行いますが、それでも夜、急に不安になってしまったり利用者さんもあります。そんなときに電話や訪問で、とにかく話を聴くようにしています。そうすることで徐々に気持ちが落ち着いてきます。私たちは利用者さんに寄り添い、「許す限り聴く」支援を心掛けています。



地域のケアマネジャーさんやヘルパーさんからもお話をたくさん受ける佐藤さんにお話を伺いました。

管理者

佐藤 清澄 様

利用保険割合

医療保険…2割

介護保険…8割

心に残った患者さんとのエピソード

「利用者さんの激励を胸に」

最近ではコロナ禍ということもあり、在宅での看取りが増えています。その利用者さんは終末期で酸素を7L/min投与されていました。本当なら病院にいなければならぬような方でしたが、病院に入院すると面会できない現状から、利用者さん本人の「家にいたい。妻と一緒にいたい。」という強い思いを家族も尊重し、私たちはとにかくできることをやってあげようと、支援を始めました。

最期が近づいたあるとき、奥さまが「苦しいのにもできなくてごめんね。」と、涙をポロポロ流し、それを見守っていた私たちも、もう泣き止まらなかったことがあります。するとその利用者さんは呼吸がとても苦しいはずなのに「お前たちがしつかりなくては大変なんだぞ」と逆に励まされ、奥さまと一緒に感激をしました。その後、その利用者さんは、奥さまと息子、娘に見守られ、静かに息を引き取られました。苦しい時期もあったけれど、利用者さんの希望に沿ったお看取りができて本当に良かったと思います。

その後、奥さまから訪問看護の支援が「本当に有難かった。安心して看取れました。」と言われました。在宅の

静かに「話を聴く」姿勢は、利用者さんや家族だけでなく地域の支援者との信頼関係にも繋がっていると実感しました。地域の方をしっかりと見守る「こころの和」は、どんどん広がってほしいですね。(記者より)

看取りについては、家族もどうしているかわからないという不安を抱えています。またご本人が自宅での看取りを希望していても、家族や親戚の「どうにかしてあげたい。」という気持ちから、最後は病院や施設で看取る選択をする方もいます。看取りに正解があるわけではありませんが、ご本人の意思を尊重するためにも、那須烏山市・那珂川町・南那須医師会が合同で作成した終活ノート等を利用してご本人の思いをよく聴くことがとても大切だと思っています。

ケアマネジャーとの連携で思うこと

私たちのステーションでは以前から、ケアマネジャーさんを始めとする支援者のことを大事にしています。その思いが通じるのか、連携はとも取りやすく、有難いと思っています。烏山地区は高齢化が進んでいき、8050など課題はありますが、これからもこの地域を見守っていきたいと思っています。



看取りのパンフレットは、家族の気持ちを考えながら渡しています。